

探偵 ニュース

INDEX

- 永井 光ーインタビュー
- 社内アンケート
- 部署紹介 ～相談部～
- お知らせ
- SDGS への取り組み Vol.2

発行：原一探偵事務所 探偵ニュース編集部
〒350-0826 埼玉県川越市上寺山 2-1
TEL：0120-85-8011 <https://haraichi.co.jp/>

VOL.19 発行日：2021.11

刑事時代の経験を活かして社会に貢献したい

探偵はパブリックサービスでは難しい問題も
きめ細やかに対応できる仕事

原一探偵事務所ではさまざまな視点から社会貢献を行い、固定概念にとらわれない調査方法や知識を得るために日々尽力しています。今回は長年刑事経験のある永井顧問に「探偵ができる社会貢献」についてインタビューしました。

永井顧問の経歴と原一探偵事務所の
顧問になった理由

昭和53年から32年間埼玉県警の刑事として殺人誘拐などの刑事事件の捜査に携わり、被害者の無念を晴らすことや被害者を救出することを念頭に置いて事件捜査をしていました。探偵の仕事は家庭の問題を解決したり所在不明者を探したり、捜査と調査・被害者と依頼者の違いはあれど、困っている方のために尽力するところは通ずるところがありますよね。

警察OB目線で見ると
原一探偵事務所の調査力

浮気調査や素行調査のイメージが強い探偵ですが、原一では調査技術のノウハウと経験



を活かした「子供の見守り」「家出人捜索」「高齢者の見守り」にも積極的です。現代社会の問題解決に積極的に取り組むことは、広い視野と高い調査技術がなければできないと警察OBとして考えます。

警察・市役所・学校などパブリックサービスでは難しい「依頼者との1対1の密なやりとり」があつてこそそのきめ細かい調査は、一人ひとりの期待に沿った結果を導いていると思います。

さらに経験だけに頼らず、定期的に勉強会を行ったり専門分野の講師による講演会等、業界トップの調査力を維持するための様々な努力が、確実な調査結果に結びついていると感じました。

探偵事務所のこれからの
社会的立場を考える

原一では、目に見える調査以外にもボランティア活動や募金・寄付金活動にも力を入れています。さらに新たなCSRに対する取り組みにも積極的です。

これは警察や役所などパブリックサービスでは行えないことです。探偵といえども一企業として社会貢献に多角的に取り組むことは、

大変意義のあることだと考えています。今話題のSDGSにも積極的に取り組み、探偵として何ができるかそして会社としてやるべきことを会社や社員が一丸となつて行うことは、相談にいられたお客様に対して真摯に対応できる結果に繋がります。見えないところでも誠実に社会貢献を行う大切さをしっかりと理解して取り組んでいる部分に関しては、警察OBの視点から見ても大変感銘を受けています。

お悩みを抱えたお客様が探偵事務所に相談するには大変勇気があることだと思えます。探偵のイメージ、調査の内容、そして費用面の不安はもちろんのこと、調査後の不安を抱えている方も大変多くいらっしゃいます。原一では、その部分に関してもしっかりとフォローをしていこうと考えています。変化化する環境や法律にも対応できるスキルを付けるための勉強にも力を入れて、お客様が自分の内側から探偵という「外側」社会に相談してくれたことをしっかりと受け止めることが使命でもあると考えています。浮気調査などでは専門的な知識や機関を知っている必要がありますし、高齢者や子どもの見守りには実践で使えるトレーニングや講習が必要です。複雑多様化する社会の中で調査依頼内容も複雑多岐にわたつてきています。

原一では先述した子どもの心と未来を守る・高齢者の見守り、ネットに関するお悩みなどあらゆるニーズに対応するために、各分野専門の講師から知識を学び、新技術の導入を行っています。

またカウンセリングやアフターフォローも積極的に行い、心によりそいながら問題解決のお手伝いをしています。

警察や市役所、学校に相談へ行くように弊社にも気軽に相談をして頂き、ご依頼者と公的機関、探偵との三位一体で安心を実感出来る社会を作っていくことを目指していきたいと思えます。そのため、警察OBの立場として、原一探偵事務所が社会に貢献できる企業として

て、さらなる発展の一翼を担えればと考えております。

近年のネット問題と探偵としてできること

令和2年に総務省が発表した「世帯におけるスマートフォン等の保有割合」は8割を超えています。

大人はもちろん子どもたちも当たり前のように家の中でもパブリックな場所でもゲーム機やスマートフォンなどからネットをつないでいる時代です。

しかしそれに伴いSNSで知り合った大人と出会い殺害されてしまったり自殺願望を持つ者同士が集団自殺をしたりとSNS絡みの犯罪も増加。

2020年警察庁は児童買春絡みの事犯のうち18歳未満の被害者は1531人にもものぼると発表しました。自分の選んだ場所での居心地の良いコミュニケーションを全国規模で作ることができるネット社会は、良い部分もありますが家族や周囲、さらに子ども自身が気付かないうちに被害者になってしまう可能性もあります。

あげられるのが理想ですが、完璧に行くことは難しいのが現実問題です。

原一では時代に合わせた調査を行うため人海戦術からSNS解析までを網羅できるネットに長けた調査員が在籍していますのでネット犯罪防止にも活躍できると思います。

社会貢献として探偵ができる
子供・高齢者の見守りに関して

原一では子どものいじめ問題や高齢者の一人暮らし・運転に関する調査を業界でもいち早く取り組み始め、社会貢献の視点からも総合探偵社としての役割を果たそうと尽力しています。日本が抱える大きな問題の一つ「高齢者の対策」は、公的機関ですべて賄うことは難しいのが現状です。

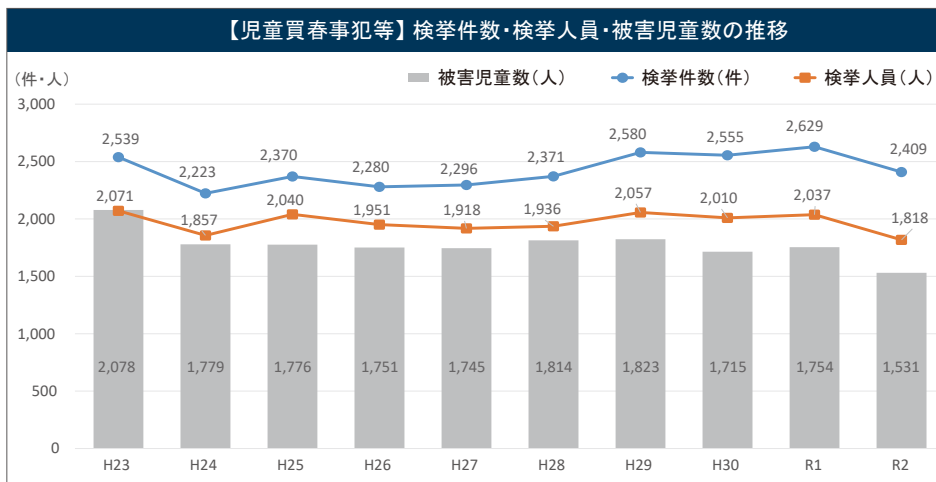
そこで探偵が生活・行動・運転など依頼者が見えない部分の見守りや調査を行いその結果、深刻な事態を事前に回避することができると思っています。さらに共働きやオンラインコミュニケーションが当たり前になっていく今、同じ家庭内においても子どもに目がいきづらい社会状況になっていきます。

ネット社会での出会いやオンライン上でのいじめなど親が知らない間に問題が大きくなっ



ながい こういち
顧問 永井 光一

30年間刑事として現場の第一線で活躍。警察署長時代には数多くの警察を指揮監督し、多くの事件を解決した実績を持つ。
刑事部では参事官として組織をまとめ、刑事部内の重要事項に関わり活躍。



出典：警察庁 少年非行、児童虐待及び子供の性被害の状況について（令和2年）

しており、手遅れになるケースも警察時代に見てきました。

お子さんの会話が減ってきたり、部屋にこもる等、普段の様子に少しでも異変を感じたらいち早く相談をし、登下校などの状況を探偵が調査して、情報あるいは行動を把握し小火のうち適切に対処しお子さんを守るための行動をとっていただけたらなと思っています。

このような調査活動を社会貢献の一環として、専門で行えるのは、多くの実績と経験そして日々の勉強の積み重ねがあるからこそ。

問題を解決してニーズを満たしていけると思っています。

昨年は格別の御圧情を賜り、厚く御礼を申し上げます。

本年も社員一同、「ココロによりそう」サービスを心がけ

生活全域サポートをさらに強化し、

皆様のお役に立てるよう、精進を重ねてまいります。

本年もどうぞ宜しくお願い申し上げます。



社内 アンケート

2021年の振り返りと 2022年に向けて

原一探偵事務所の社員にアンケート調査を実施！
お客様と実際に接する相談員から調査を担当する
調査員までの、生の声をお届けします。
今回はゆく年くる年にまつわる話を聞いてみました

2021年
ここができた



テレワークの
スムーズな
導入

原一探偵事務所の
5S活動が
できた

LINE 導入などお客様が
相談しやすいツールが増えた。
様々な経路からのご相談に、
臨機応変に対応することが
できるようになった

立場が変わって、
広い視野で業務内容や
社内についての理解・判断が
できるようになった

テレワークが多く、一人で長時間
PC に向かい仕事をしていると
ゆっくり自分の仕事を
反省することができました

原一の5S活動



効用のS

作 法	社員モラルが向上
信 頼	お客様・取引先からの信頼が向上します
スピード	業務のスピードが速くなります
スマイル	コミュニケーションが向上します
辛 抱	5S を継続する力が身に付きます
セキュリティ	情報漏洩対策が向上します
削 減	紙・ゴミ・電気の削減により経費が削減できます
セイフティ	労働安全衛生が向上します

2021年
嬉しかった
ニュース



探偵ニュースが
復活したこと！

息子から素敵な
誕生日プレゼントをもらい、
温かい言葉を受け取ったこと

孫の成長

スキルアップのために
資格取得したこと

コロナ禍で
行けなかったところに
最近行くことが
できるようになったこと

2022年
やりたいこと



ボランティアや
奉仕活動したい

他部署の仕事を
どうやっているのか詳しく
知りたい

組織改革を通して、
さらにやりがいのある
ワクワクする会社に
変えて行きたい

SDGs 促進と
売上及び生産性向上
ブランディング強化

自分の部署だけでなく、
関連部署から会社全体までの
業務を効率化し、コミュニケーション
を活性化できるような仕事で
会社に貢献したい

LINE をはじめ
ソーシャルからの
流入を増やしたい

部署紹介

相談部

お客様をお迎えする玄関口

相談部は、悩みを抱えたお客様が連絡を最初にしてくる場所です。探偵では「どんなことができるのか」など不安で恐る恐るお電話をかけてくる方が多くいます。また全く面識のない相談員にだからこそ誰にも相談できなかった悩みを話せるという方もいます。原一では、電話、ライン、チャット、10秒メール、通常メールと様々な方法でお客様からの相談を受けています。電話では声のトーンや話し方、ラインやチャットでは言葉じりや対応のクイックさがお客様への印象を決めるので、相談部として共通の認識を持ちお客様のココロによりそった対応ができるようにしています。

電話口で号泣されるお客様もお礼を言ってくれるお客様も

相談部の仕事は、ただ話を聞くだけではありません。そのお悩みに沿った専



門的な返答や対応も求められています。探偵としての知識や浮気、家出、見守りなどそれぞれのお悩みに沿った対応をしていると感情があふれ出して電話口で号泣してしまうお客様も少なくありません。それだけ辛い思いを抱えているお客様なので、原一の相談部では「当事者意識」を持って迅速で親身な対応をしています。相談後にお礼を言われたりお手紙をもらったりすることもあります。それは相談を受けた側としてはとてもうれしいことです。お客様の人生のターニングポイントのお手伝いができる部署として、相談部は24時間365日休みなくお客さまをお待ちしております。

原一探偵事務所 SDGs への 取り組み

Vol. 2



ジェンダー平等実現のため
原一が取り組んでいること

相談に来るお客様には女性のお客様も多くいます。去年より原一探偵事務所ではさらに「女性が働きやすい会社」を目指し始めました。

社長が女性になったと同時に女性役員も採用。SDGsで掲げられている17の目標の5番目にある「ジェンダー平等を達成しよう」を「性別に関わらずに活躍できる企業」として実現させていきます。日本政府が取り組んでいる3つの基本原則

- ・女性と女兒の権利の尊重・脆弱な状況の改善
- ・女性の能力発揮のための基盤の整備

・政治、経済、公共分野への女性の参画とリーダーシップ向上にも積極的に取り組む方針です。原一では女性が働きやすい環境を作ることは業務効率化、生産性向上にもつながると確信しています。探偵事務所では、男性・女性問わずそれぞれが活躍できる場所があります。

調査員は男性のイメージがある方が多いと思いますが、女性だからできる聞き込みや調査も数多くあります。今は浮気の相談も家出の相談も男女どちらからでもご相談を受ける時代です。

それに伴い原一探偵事務所でも、どちら側の気持ちも理解できるような体制を整えています。

Information

- ・10月16日 本社に新しく設置された自動販売機の売り上げの一部が「こども食堂応援基金」に寄付されるようになりました
- ・10月28日 安心して暮らせる街づくりへの取り組みとして地域の防犯活動「子ども110番の家」に登録されました



探偵ニュース WEB 版はこちら